

# 自転車 の基礎情報



平成28(2016)年11月21日 No. 14

## シティ車のグリップ

今回はシティ車のとても大切なパーツの一つであるグリップです。グリップはシティ車の中で人に直接触れる数少ないパーツの一つです。

グリップはハンドルの径に応じて大きく3~4種類に分けられます。シティ車の場合にはハンドル径22.2mmが多いので、グリップはハンドル径よりほんの少しだけ小さい径21.5mmが代表的なサイズとなっています。長さはグリップシフト用であるかないかなどによって異なります。

ところで、仮にグリップがハンドルに取り付けられていないとすると、金属製のハンドルを直接握ることになります。寒い日であると冷たくて、とてもハンドルを握れません。一方、雨の日だとつるつる滑ってしまい、危なくてシティ車に乗っていただけなくなります。グリップはハンドルの金属の部分を柔らかい材質で覆い操作性を上げ、さらには、直接的な熱、振動、衝撃などから乗り手を守っているのです。

このように考えてみると、グリップはシティ車にとって必需品であることは間違いなく、乗っている人に安全と安心を与えます。

だから、「ハンドルからグリップが抜けにくいこと」がとても重要になります。

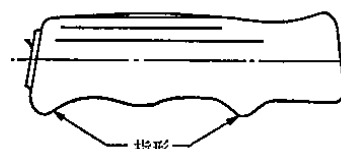
何かの拍子でグリップが抜けるとハンドルから手が離れてしまい、一瞬のうちにシティ車はバランスを失ってしまいます。

グリップが簡単に抜けないように、日本工業規格(JIS)ではグリップの試験方法を定めています(JISでは『にぎり』という名称です)。

その方法ですが、暑くて湿度も高い日本の気候を想定しています。ハンドルにグリップを取り付け、60°C±2°Cの温水に4時間以上浸けます。その後、ハンドルに装着したままのグリップを取り出し、一定の時間内にグリップの元の部分を試験用の器具により100Nの力で引っ張って抜けにくいかどうかを調べます。

ところで、シティ車の販売者や利用者はグリップの日常点検を行うことにより、簡単に安全安心を手に入れることができます。力を入れてもグリップが回ったり抜けたりしないことを確認することです。たかがグリップ、されどグリップなのです。

次号は、平成29年1月20日に発行を予定しています。



指形のあるにぎり



指形のないにぎり

### <発行>

一般財団法人自転車産業振興協会

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4階

電話：03-6409-6922 FAX：03-6409-6868 <http://www.jbpi.or.jp>

